

# 不妊のこと、知ってください！

## 1 不妊症とは？

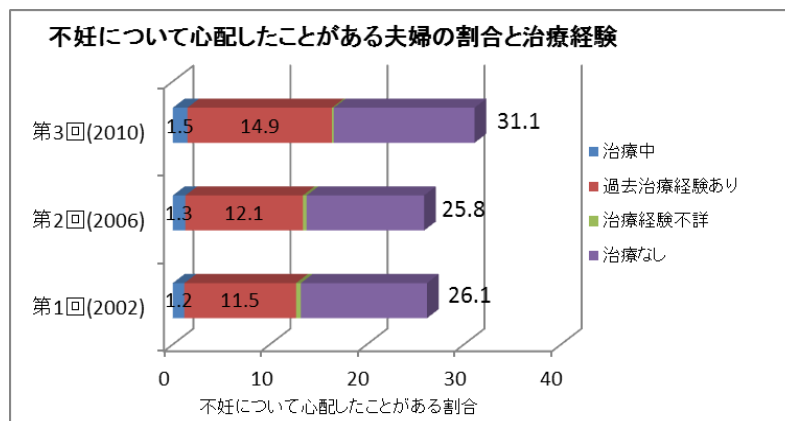
「生殖年齢にある男女が避妊をしない性交を続け、2年を経ても妊娠に至らない場合」を不妊症と言います。

月経周期が順調な人なら年間12～13回の排卵がありますが、その中で妊娠に結びつくような周期は3割程度と考えられています。特に病気のない健康な夫婦が避妊をせず性生活を営んだ場合、1年間で80%、2年で90%が妊娠するといわれています。つまり、約10%のカップルが不妊症と言えます。

## 2 不妊症の方は増加しています！

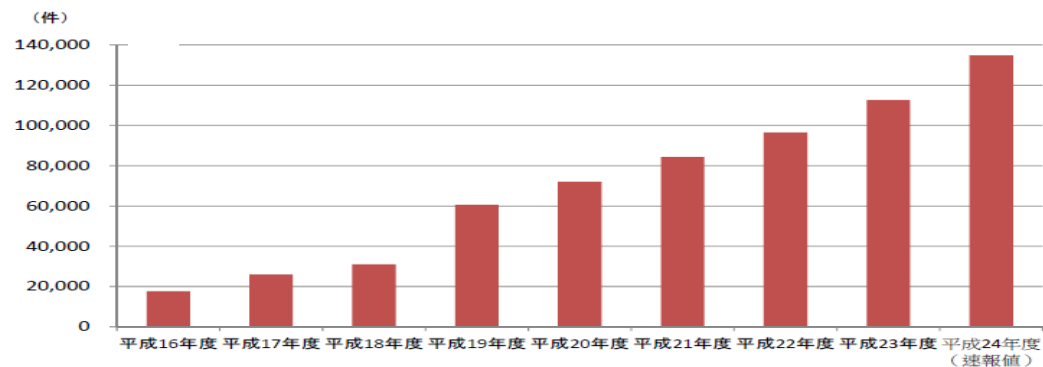
平成24年の我が国の平均初婚年齢は男性30.8歳、女性29.2歳となり、第1子出産時の女性の平均年齢が30.3歳となり、年々、結婚年齢や妊娠・出産年齢が上昇しています。

2010年出生動向調査（国立社会保障・人口問題研究所）によると、不妊を心配したことがある夫婦は全体の3割を占め、6組に1組が不妊の検査や治療を受けたことがあると回答しており、その割合は近年増加傾向です。



また、特定不妊治療（体外受精、顕微授精）費の一部を助成する特定不妊治療費助成事業を受けられる方は毎年急増しています。

### 特定不妊治療費助成事業の助成件数の年次推移（全国）



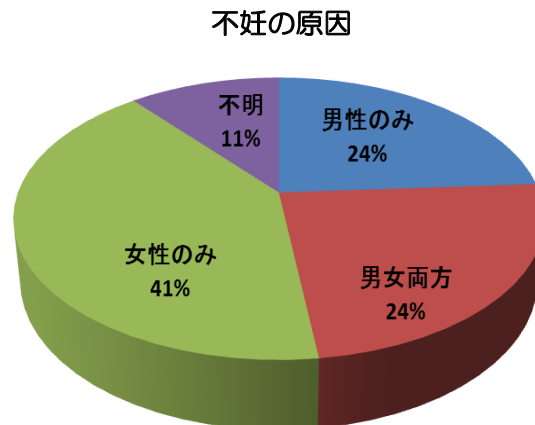
助成年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(速報値)
助成延件数	17,657	25,987	31,048	60,536	72,029	84,395	96,458	112,642	134,881

\* 平成25年6月28日時点の暫定的な集計を行ったもの。

### 3 不妊症の原因はさまざま。女性だけの問題ではありません！

妊娠が成立するためには、卵子と精子が会い、受精して着床する過程で、多くの条件が整う必要があります。不妊症は、これらの過程のいずれかが障害を受けることで起こります。

例えば、精巣で精子を作ることが出来ない場合や、精子の通り道に問題がある場合、排卵がうまくいかない場合、受精卵の着床が出来ない場合などの原因が存在します。男性側の原因が24%、女性側の原因が41%、両方の原因が24%、原因が不明11%とされています。

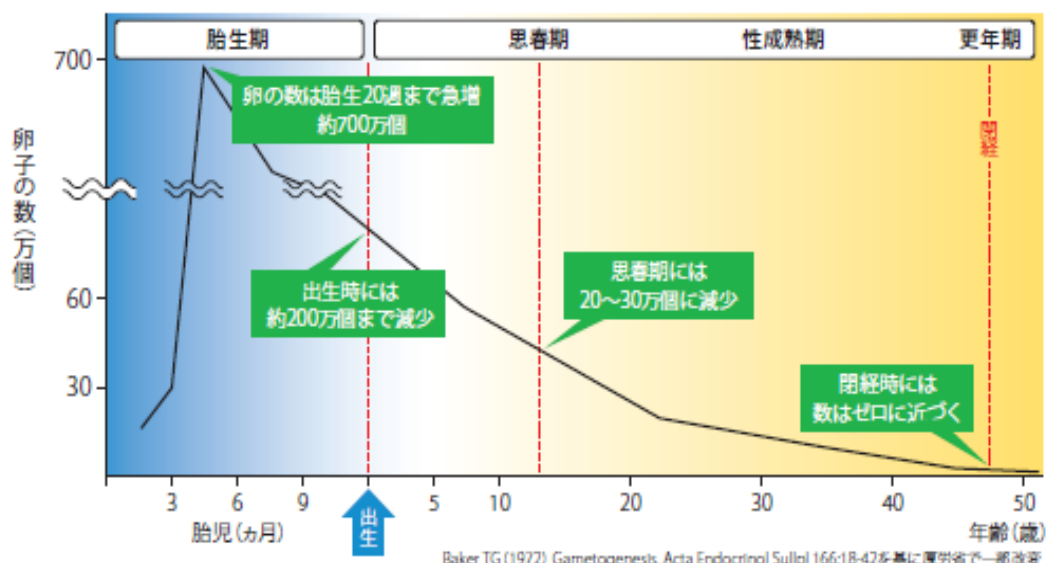


### 4 男性・女性ともに妊娠・出産に適した年齢があります

一般に、女性の卵子は出生後新たに作られることはなく、加齢とともに質・量共に減少し続けます。妊娠自然に妊娠する力は30歳から下がり始め、特に35歳後半になると、年齢が増すごとに妊娠し難しくなります。男性も加齢とともに精子数が減少するとされています。

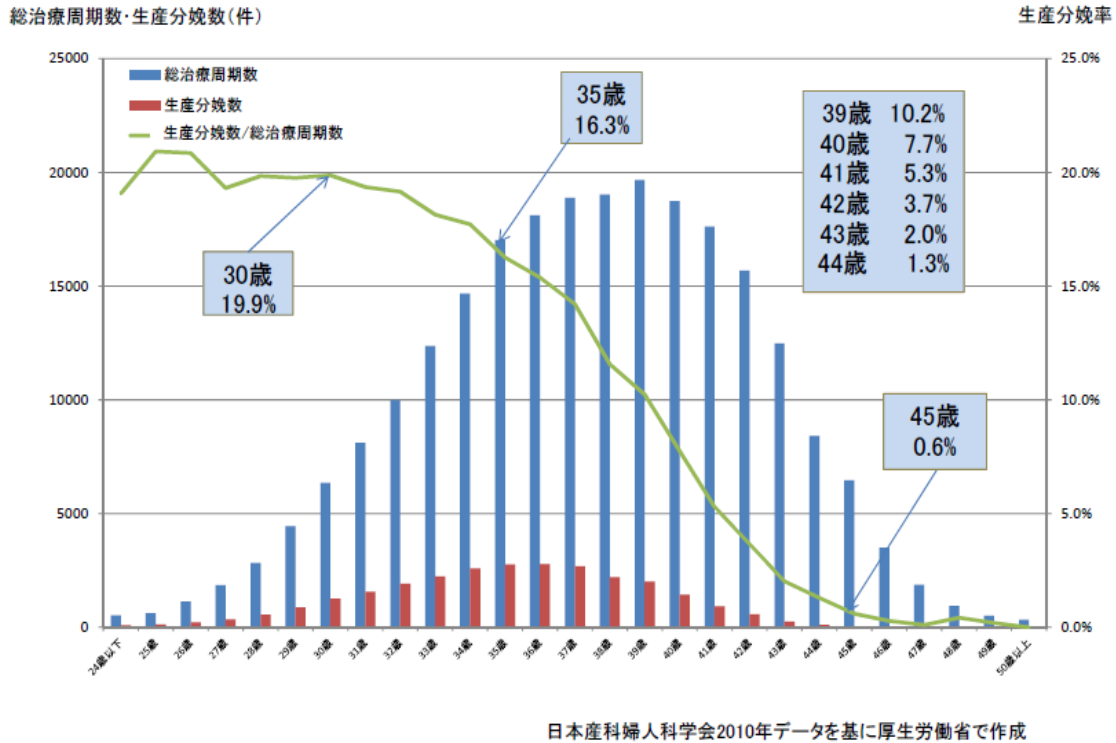
#### 女性の各年齢における卵子の数の変化

卵子は、出生後は新たに作られることがなく、質・量ともに減少し続けます。そのため、年齢とともに、妊娠しにくくなったり妊娠の異常が起きやすくなります。



また、不妊治療を受けても30歳代後半以上になると年齢が上がるほど分娩率は低下し、45歳以上では1%未満となり、なかなか妊娠し難いことがわかっています。

### 女性の年齢別の不妊治療における分娩率



## 5 不妊治療で妊娠に希望。その裏で身体的、精神的負担を抱える方も・・・

検査によって、不妊の原因となる疾患があるとわかった場合は、原因に応じて薬による治療や手術を行い、医師の指導のもとで妊娠を目指します。これらの治療を行っても妊娠しない場合は、卵子と精子を取り出して体外で受精させてから子宮内に戻す「体外受精」や「顕微授精」へと進みます。体外受精や顕微授精により出生した子は平成22年では全体の出生数の約3%を占めており、生殖補助医療が進歩したことにより、産めるかもしれないという希望が持てるようになりました。

しかし、治療の過程では連日の注射や検査に伴う痛みや副作用による身体的負担、治療を始めてすぐに妊娠する人もいれば、何年も治療を続けても妊娠に至らない、あるいは、残念ながら流産という結果に至る場合もあり、精神的な苦痛や苦悩を抱えている方もあります。

さらに、不妊の原因がたとえ男性側にあっても、不妊治療は産む側の女性の体に施されるため、特に女性が多くの精神的・身体的ストレスを抱えることも少なくありません。

## 6 みんなができること

### 1) 不妊で悩む方々の家族や周囲の方々へ

子どもを産むのか産まないのか、いつ産むのかという判断は、当事者であるカップルが自らの意思で行うものです。

そして、「子どもを持ちたい」と思っても、昔は種々の条件によって諦めるしかなかった妊娠や出産について、希望が持てる時代になりました。

しかし、治療への過度の期待を周囲が抱くことにより、治療を受ける当事者を追い込むことも少なくありません。不妊に悩む方々の支えとなる家族や周囲の方々も正しく理解することが必要です。

当事者の方々も悩み、葛藤しています。当事者の方々に温かく見守り、その人自身の心や体、生き方を尊重することが必要な支援ではないでしょうか。

### 2) 不妊で悩んでいる方へ

不妊によるストレスは、さらに心身の不調の悪循環を来たします。

自分自身や夫婦の生き方をもう一度見つめなおし、新たな一歩を踏み出しましょう。

岐阜県では、不妊相談センターを開設し、相談に応じています。不妊に関することで一人で悩んでいませんか？どんなことでもお気軽にご相談ください。

詳しくは、岐阜県不妊支援総合ポータル「このとり応援団ぎふ」を参考にしてください。

不妊支援総合ポータル

このとり応援団ぎふ

検索 